



2008.4.発行 VOL18

# 子どもの国 だより

●放課後学習支援事業「ゆめの木教室」小中学生対象 月曜日～金曜日 午後2時～6時

●青少年の自立支援事業「そら」中学就学年齢以上対象 水曜日午後6時30分～8時30分

●青少年の健全育成のための事業 随時:相談・支援

●交流会 奇数月 第3土曜日 午後6時～午後8時

●「わくわく教室」 随時(但し土日と夏休み期間)

## ゆめの木教室

「ゆめの木教室」は月曜日～金曜日 午後2時～6時に開いている教室です。今年もお盆・年末年始・春休みの期間を除いて活動しました。子どもたちは元気な声で「ただいま！！」と言って帰ってくると、直ぐ宿題に取り掛かります。宿題の量は学年によって違いますが、互いに宿題を確かめ合いながら、勉強しました。

平成 19 年度は、読む力を付けるために1級～15級までの漢字カードをつくり、それぞれのレベルに合わせて読みの練習をさせたところ、たいへん意欲的に取り組む児童が多く見受けられました。また、ゆめの木漢検という漢字検定を毎月1回実施しました。特に高学年に効果があり、漢字を読む力がメキメキ向上しました。

夏休み期間中は、例年より参加者が多く、前半に夏休みの宿題をなるべく終わらせて、後半は学年ごとの学力を定着させるよう支援しました。予定通りに宿題を終わらせることができない子もいましたが、ほとんどの児童は、コツコツと宿題を片付けて、後半は図画等の工作をスタッフのアドバイスをもらいながら作成していきました。これからも新しい試みを取り入れながら、児童生徒の学力向上をはかっていきたいです。



小物入れ上手く出来たでしょ！！



宿題早くやらなきゃ！！

## そら

「そら」は、毎週水曜日の午後6時30分～8時30分に活動しています。平成 19 年度も前年度に続いて、さまざまな国籍(日本・ペルー・ブラジル・フィリピン)の中高生や派遣社員として働く青年など所属の異なる青少年が集まりました。「そら」では、一人ひとりが日々の生活で感じたことや関心のあることを話したり、各自の仕事に対する想いなどについてスタッフの経験談もまじえて話し合ったりしました。また、個別の相談にも対応しました。彼らは生活の中でたくさんの社会経験をしているようです。「そら」の活動では、青少年を見守りつつ、彼らが自分の生き方を見つめられるよう、自立支援を続けて行きたいと思います。

## 交流会

2ヶ月に一度行なわれる交流会では、ゆめの木教室に通う子どもたち、保護者、スタッフが集まり、誕生日会、親睦会等を行います。保護者の中には手作りの料理を持参して下さる方もあり、なごやかな雰囲気の中で、日本での高校進学や就職に関する情報を積極的に伝えました。

交流会は普段のゆめの木教室の活動とは大きく異なり、思いっきり食べて、思いっきり遊びます。そして、保護者と子どもたちがそれぞれ違う部屋に分かれ、子どもには工作などの遊び、保護者には日頃悩んでいることや心配なことなどについて、話し合う場をつくりました。子どもたちは普段見せない表情をしたり、他の子を手助けしたりするなど、意外な面を見せてくれました。

また、平成19年度は保護者からの要望を取り入れ、日本の茶道を体験しました。お茶の講師とお手前の出来るスタッフがお茶をたて、参加者に振る舞いました。後日、保護者から嬉しい感想をたくさんいただき、次回もこのような日本文化を感じられる催しを実施してほしいという意見がありました。

これからもこのような機会を大切にしていきたいと思います。



誕生日おめでとう。



とっても上手でした。

2007年ゆめの木では、5人の小学6年生が卒業しました。新中1年生になった彼らに、ゆめの木での思い出や将来の夢を書いてもらいました。

(①小学校生活で楽しかった事 ②小学校生活での失敗談

③ゆめの木で過ごして思い出に残っている事 ④中学校に進学してやりたい事、将来の夢)

K君

①1番思い出に残っていることは陸上のブロック大会で優勝した事です。サッカーの大会だけでなく水泳の自由形リレーにも優勝したことです。

②運動会で騎馬戦の大将になりたかったです。 ③公園に行ってみんなと遊んだ事です。

④サッカー部の友だちとろくしょ山に行ったりしたいです。

<p>G 君</p> <p>①修学旅行の薬師寺(千年のくぎ)、キャンプの肝試し      ②料理をいっぱい作りたかった</p> <p>③公園でいっぱい遊んだ事      ④中学にいったら、高飛びで一番高く飛びたい。</p>
<p>S 君</p> <p>①楽しかった事は、放課の時サッカーをして遊んだ事です。思い出に残っている事は修学旅行です。</p> <p>②特になし      ③でれでれしていた      ④将来の夢は、車のデザイナーになる事です。</p>
<p>Jさん</p> <p>①修学旅行とキャンプ      ②調理実習の時に、ポテトサラダのニンジンを手早くしたかったのに、ニンジンを硬く茹でてしまった事      ③みんなでプールとか一緒に行った思い出</p> <p>④中学校に進学したら、バスケ、テニス、美術部などの部活に入りたい。将来の夢は獣医になりたい。</p>
<p>Y 君</p> <p>① 学芸会・キャンプ・修学旅行・運動会      ②キャンプの時、キャンプの3日間雨だったので晴れたらよかったのに…      ③電気の科学館とかいった事      ④中学校に進学したら出来るだけ友達を多く作る事</p>

2008年春、春田さんと渡慶次君がゆめの木スタッフを卒業しました。

子どもたちの学習支援、本当にありがとうございました。新社会人になるお二人に、ゆめの木で感じた事を語ってもらいました。

「ゆめの木教室で学んだこと」 Hさん

私は「ゆめの木教室」で人から必要とされることの喜びを感じた。ボランティアを初めて間もない頃は週に一回程度、ほんの短い時間の参加だったが、そんな私でも一緒に活動をするスタッフの方々から感謝の言葉をかけていただくことがあった。しかし、子どもの指導をするという点において、私は自分が子どもたちの役に立っているのか、全く分からない状態だったのである。そんな私に変化が起きたのは夏休みの活動のときだった。学期中、他の予定が入ると休みがちだったこのボランティアを、夏休みは最優先にすることでほとんど毎日子どもたちに接することが可能になった。毎日会うことで見えてくる新しい発見。それぞれの子どもに課せられている課題、勉強の内容はもちろん、その子が何に興味を持っているのか、何をしがっているのかが分かるようになった。子どもたちを迎え、一緒に勉強し、おやつを食べて家まで送るという活動の中で子どもたちの成長が見えたとき、スタッフの方々に言われた「ありがたい」という言葉の温かみがじんわ



りと私の中に広がっていった。学校からの紹介で通うことになった「ゆめの木教室」のボランティアは、私に大きな実りを与えてくれた。もし、このボランティアに携わることがなかったら、私は外国人の出稼ぎの問題、外国人児童の不就学の問題等、何にも知らないままに生活していただろう。他人の痛みを自分の痛みとし、誰かのために一生懸命になるゆめの木スタッフの方々の志を、私はしっかりと受け継ぎ、社会人として全ての人の力になりたい。

「ゆめの木教室での二年間」 T 君

僕は「ゆめの木教室」で二年間、ボランティアスタッフとして活動させてもらいました。振り返ってみると、「ゆめの木教室」は外国籍児童への放課後学習支援ということではありましたが、不思議と子どもたちを外国籍児童として意識したことは少なく、彼らを個人として認識し、接していたなあと感じます。それは人と関わるということを考えた場合に、当たり前のことなのかもしれませんが、そして、そのなかで個性豊かなスタッフの方々と活動をともにさせていただき、多くのことを学ぶことができました。また、こども達からも多くのことを学ばせていただきました。とくに今の新6年生は印象に残る学年でした。彼らとはよくもめました(笑)。また国語教材を通して、あるこどもの持っている優しさに触れることがあったり、こどもを取り巻く環境や生活が彼らの考え方に大きな影響を与えているのだな感じたこともありました。しかし、なによりももっと私にとって重要で大切であったことは、「ゆめの木教室」がいつの間にか私自身の居場所であったということでした。そしてそれはこどもたちにとっても同じなのではないでしょうか。こどもによっては、「ゆめの木教室」に行かず遊びたいと思う子もいるだろうと思いますが、そんな子でも「ゆめの木教室」に行けば待っていてくれるスタッフがいるという安心感。やっぱりそれはこどもにとって大切なことだと思います。何故なら、こどもの生活が安定しないこと(居場所がないこと)には彼らの学習権の保証はできないと思うからです。だからこそ、「ゆめの木教室」では、勉強を教えるスタッフだけでなく、様々な形でこどもをサポートしてくれるスタッフの方々が関わっているのだなと、卒業した今頃になって思います。本当に二年間ありがとうございました。オブリガード！

ホームページ：<http://www.kodomonokuni-aichi.org/>

メールアドレス：<mailto:kodomonokuni1999@yahoo.co.jp>